

UNIRITA

Magazine

ユニリタマガジン

2-3

2019

新ビジネスコラム

データセンターの現状

～「ユニリタクラウドサービス」発表、
データセンター採用の背景～

業務課題解決ソリューション

業務知識のお預かりサービス

業務フローを自社で維持管理する
体制がないお客様へ

製品&サービス最新トピック

デジタルサイネージ向けの コンテンツマネジメントシステム 「PICLES」のご紹介

～業種別に特化したテンプレートで
コンテンツ作成・管理を簡単に～

システム管理者の会

2019年度の人材教育計画は
いかがでしょうか

UNIRITAユーザ会

第36回UNIRITAユーザシンポジウム
プログラムのご紹介

パートナー様ご紹介

第36回UNIRITAユーザシンポジウム
出展パートナー様一覧

ユニリタ
イメージキャラクター
ホラン千秋



データセンターの現状

～「ユニリタクラウドサービス」発表、データセンター採用の背景～

この度、ユニリタは、「ユニリタクラウドサービス」(データセンターは、株式会社アイネットのクラウドプラットフォーム「Next Generation Easy Cloud®」*)を採用)を発表しました。

本サービスは、これまでユニリタが積み上げてきた「運用」の強みを存分に受け入れ、他社が展開するクラウドサービスとは大きく異なり、利用者に多大な利益を生み出すことを確信しています。

今回ユニリタが「ユニリタクラウドサービス」を発表した狙いは、以下の3つです。

- 1 国内最高レベルのデータセンターを活用し、ユニリタが保有するソフトウェア資産を、サブスクリプションモデルのクラウドサービスでお客様へ提供する
- 2 これまで培ってきた「運用」の強みを活かし、サポート領域を拡大して、付帯するお客様の業務運用、システム運用、インフラ運用に対し、統合運用によるフルマネージドサービスを提供し、安定稼働とコスト削減を実現する
- 3 これまで培ってきた「データ活用」の強みを活かし、データセンターに蓄積されたお客様のさまざまなデータを、ユニリタが管理/分析し、その結果をお客様への改善提案や次のIT検討の材料として提供する

「ユニリタクラウドサービス」の特長

ユニリタの製品&サービスを活用したユニリタフルマネージドサービスの提供(「ユニリタデータセンター」だけに限らず、お客様採用のAWS/Azure、他社データセンターもフルマネージドサービスの対象)

データ蓄積のプラットフォームとして、蓄積されたデータの分析、活用を通じ、専門家集団がお客様へ付加価値を提供

ユニリタフルマネージドサービス
(統合マネジメント)

ユニリタデータセンター

AWS/Azure

オンプレミス

他社データセンター、クラウドサービス

ユニリタデータマート

お客様の業務運用、システム運用、インフラ運用などの観点でさまざまなデータを分析/解析し、フィードバック

お客様の全てのIT作業を対象にユニリタが統合的にマネジメント
今後の働き方改革、人材不足を強力にサポート

この「ユニリタクラウドサービス」は、今後、ユニリタの戦略の大きな柱となります。

詳細な内容については、ユニリタマガジンで順次紹介していくこととなりますが、今回のビジネスコラムでは、ユニリタが取り組んだデータセンター採用の背景についてご紹介します。

「ユニリタクラウドサービス」提供は、お客様ニーズの変化がポイント

お客様のIT選定状況を見るとIT活用に対する考え方(IT部門が置かれている状況)が変化してきています。その中で当然データセンター活用のニーズも変化してきていることがわかります。特殊用途なものについてデータセンターが活用される傾向が強く、その他はクラウドを優先して検討する傾向となっています。

IT部門が置かれている状況

守りのIT ▶ コーポレートIT 攻めのIT ▶ ビジネスIT

全体最適・効率化・コスト削減 顧客満足度向上・売上拡大

継続的な学習サイクル サービスマネジメント



部門の施策、課題や問題への対策

部門で計画されている戦略や施策を進める必要があるが、突発のトラブルや他部門からの問い合わせや作業依頼があり、注力できない

複雑化、増加する社内システムへの対応

今まではIT化されていなかったシステム(電話、TV会議、HP、請求システムなど)への対応で工数が増加

経営からは事業貢献を求められている

ルーチン業務、トラブル対応から事業貢献できる組織への変革が求められているが、現状業務に追われて、考える余裕やスキルUPするための時間が確保できない

IT部門のクラウドに対する考え方 これまで

- 重要な基幹システムはデータセンターに置く
- 膨大なデータを持つシステムを社外に置くと応答速度が遅くなるためデータセンターには置けない
- 主にSlerがお客様のシステムを、運用を含めて契約する時に使う場所

これから

- クラウドがあるなら、まずはクラウドを活用する
- クラウドで支障があるものを物理サーバで自社資産として保有してデータセンターに置く
- クラウド化することで応答速度が本来求める要件とアンマッチになるシステムは、仕方なくデータセンターに置いている
- クラウド事業者がクラウド基盤を置く場所
- 回線キャリアPOP (Point of Presence) 用途
- 超高負荷サーバの設置場所

今後のDX(デジタルトランスフォーメーション)の加速の波に乗り、働き方改革(リモートワーク、業務改善、ソーシング強化、等)やサービス提供モデルの変化に早く追従していくためのサービスの基盤選定とサービス提供の準備が必要になります。クラウドがスタンダードになれば、必ずデータセンターが活用されます。クラウドは、さまざまなプラットフォームが選ばれ、これまでの密結合環境から疎結合の環境に変化します。ユニリタは、複雑化するお客様環境を見据え、「ユニリタクラウドサービス」の柱になるデータセンター選定に本腰を入れて取り組みました。

データセンター検討項目

クラウドサービス基盤として利用するデータセンターの選定は、以下
の内容で検討しました。(社内検討する際にご参考ください)

検討項目

- 電力の信頼性
- 交通、アクセシビリティ
- 建物下:地盤状況
- 回線引き込みキャリア
- ラック当たりの利用可能電力
- 築年数
- グローバル展開の考え
- 既存ユーザの業界層
- 運用サービス(インフラ運用)
- 拡張性(空きスペース、設備の老朽化度合い)
- クラウド接続サービス(海外、他クラウド業者との接続)
- セキュリティ(IDカード発行、生体認証、共連れ防止ゲート、監視カメラなど)
- 認証や指標(Tier²レベル、PCI-DSS、ISMS、ITSMSなど)

ユニリタの選定段階では、単純に自社データセンターから外部のデータセンターに移設する視点だけでは効果を示すことが難しい状況でした。しかし、今後展開する「ユニリタクラウドサービス」において、機器故障率、停電対応工数削減、セキュリティの向上、天災リスク軽減、運用代行など、高品質で低価格なサービス提供を考えた場合に考慮すべき、経営リスク回避、課題解決がデータセンター採用により確実に、長期的な視点で経営効果があると判断しました。

お客様視点でのメリット、デメリット

お客様視点で基盤選定する際のメリット、デメリットを定性的な視点で記載します。定量的(コスト)な視点はお客様内でもよくコスト比較資料などで検討していると思います。定性的なものは、お客様の状況によって異なりますが、ポイントは、具体性のない課題がどれだけ解決に進むのかの視点です。

外部データセンター利用のメリット

- 機器の運用管理が24時間365日対応されている
- 年に数回あるビル停電などは関係なくなる
- セキュリティが高い
- ネットワークの敷設環境も信頼性が高い
- 建物が堅牢なため、災害時の対策ができる
- 24時間365日の体制があるため、社内運用を任せられることができる
- データセンター自体の売りが強み(外販)になる

外部データセンター利用のデメリット

- データセンター利用料がかかる
- 社内とデータセンターを接続する回線費用がかかる
- 有事(BCP/DR対策)の際にデータセンターに行かなければならない可能性がある

お客様環境のメリット

- すぐ近くに機器があるため、何かあればすぐに操作可能となる
- 設置スペースの費用が気にならない
- システムと社内環境がローカルLANだけで接続できる

お客様環境のデメリット

- 有事の際の対応がとれていない
- サーバ、ネットワーク機器の運用管理を自分たちで実施する必要がある
- 入居ビル側と電源、冗長性を詳細に調整する必要がある
- ビル停電対応に伴うシステム停止対応が発生する(休日出勤対応)
- セキュリティ対応レベルが複雑になり、運用ポリシーに沿って確認する必要がある
- ネットワーク敷設に関し、技術力を持った専門家の視点で障害などのポイントを確認する必要がある(ネットワーク技術者の雇用)
- 24時間365日対応ができない場合、障害対応などを自分たちで駆け付け対応する必要がある

「ユニリタクラウドサービス」で解決できる課題は人材不足、BCP/DR対策、統合運用によるデータ収集、対応人員集約、ノンコア業務のアウトソーシングです。お客様におけるクラウドやデータセンターの検討段階で、関係者と課題整理を踏まえ、選定されることをお勧めします。

ユニリタフルマネージドサービスの提供

ユニリタは、選定したデータセンター基盤で「ユニリタクラウドサービス」をご提案します。

お客様の働き方改革を「運用」と「データ活用」で支え続けるユニリタフルマネージドサービスが強みです。

古いシステムを延命する対策やクラウド環境を活用した疎結合環境の実現(基幹システム、AWS/Azureとの連携など)、これからのIT人材不足に歯止めをかけたい、働き方改革の一環としてテレワーク実験を推進したいなどの課題が多岐にわたる企業様向けに環境をご提供しています。

クラウド化に伴う、付帯する移行作業、運用代行などのご提案ももちろん可能です。

ユニリタクラウドサービスのラインアップ

- IaaS (Infrastructure as a Service) 環境
- DaaS (Desktop as a Service) 環境
- PaaS (Platform as a Service) 環境:
ユニリタの製品 & サービスをサブスクリプションモデルで提供
PaaSモデルは、データ連携基盤、帳票基盤として提供

お客様の今後の取り組みに際し、ご提案依頼、課題整理のご相談、「ユニリタクラウドサービス」の試使用、データセンター見学などのご要望につきましては、クラウドビジネス推進室までお問い合わせください。

次号では、ユニリタフルマネージドサービスについてご紹介します。

*1 「Next Generation Easy Cloud®」について

株式会社アイネットが提供する企業向けクラウドサービス「Dream Cloud®」の中核となるプラットフォーム。VUEMウェア株式会社のSDDC (Software-Defined Data Center)アーキテクチャを採用し、パブリッククラウドや企業内クラウド(オンプレミス)などの複数クラウドやマルチデータセンターに対応する技術により、高い可用性を実現。さらに、システム移行や運用管理コスト削減の大幅な向上、データセンター間でのITリソースのモビリティ機能向上を実現。データセンターは、国内最高レベル(Tier4)のデータセンターであり、PCI-DSSなどの認証取得の他、DR/BCPサイトとして北海道、長野、大阪サイトも活用することが可能となっている。

ユニリタ データセンターの ご紹介

| | | |
|--------|------|---|
| 建物 | 所在地 | 神奈川県横浜市 |
| | 構造 | RC造、免震構造(ハイブリッドTASS構法) |
| | 建物 | 地上5階(フラットスラブ、階高5m、F A高77cm) |
| | 床荷重 | スラブ面1,000kg/㎡ |
| | 総面積 | 約13,000㎡(第1期棟7,220㎡、約1,000ラック収容) |
| 電気設備 | 受電方式 | 特別高圧66,000V、本線・予備線2系統受電 |
| | 発電設備 | N+1並列冗長構成、停電時48時間連続運転可能 燃料自動給油システム採用によりさらに継続運転可能 |
| | UPS | N+1並列冗長構成 |
| 空調設備 | 空調方式 | インバータ空調機、床吹き上げ方式、N+2冗長構成 |
| セキュリティ | | 生体認証(甲静脈認証)、非接触ICカード、フラッシュパー ゲート、マントラップ、ITVカメラ |
| 運用体制 | | 24時間365日有人対応 |

*2 米国の民間団体が作成したファシリティ基準(指標)について、日本データセンター協会(JDCC)が日本版に修正したもの。(http://www.jdcc.or.jp/pdf/facility.pdf) Tierには1から4があり、4が最も高いとされている。データセンター選定時に参考にする指標として重要なポイントとなる。

担当者紹介



沼田 貴寿

森脇 真吾

宮下 貴行

クラウドビジネス推進室
(2018年10月発足)



業務知識のお預かりサービス

業務フローを自社で維持管理する体制がないお客様へ

「ビジネスの外部環境変化に即応するため、業務の属人化の排除、標準化、自動化に取り組みなければならない。」「現状の業務フローとそれに関連する業務課題やシステム課題を整理しなければならない。」「将来的にはこのような情報（以後、業務知識と総称します）を維持管理し、日々の自律的な改善活動に活かしたい。」そうお考えの業務改革推進責任者の方々は多いと思います。しかし、いざやってみようと思うと、ルール決め、体制整備、現状ヒアリング、文書化、そのためのツール運用にかかる工数や費用は意外とかさみます。しかも、関係者は業務フロー作成など初めての経験、現業優先ですから十分な時間もありません。このような背景から、「BPM（ビジネス・プロセス・マネジメント）に取り組みたいが、人も予算も限られている。社内合意しやすい範囲の費用で始め、人はアウトソースすることができないか？」という声をよくお聞きするようになりました。本稿はこの課題にお答えする新サービスのご紹介です。

➡ どんなサービスですか？

BPMの難しさは現状業務フローの書き起こしに手間がかかることだけではありません。むしろ、業務フローが出来上がった後、そこにどんな課題を見だし、どんなTo-Beを書き、どうシステム化し、どうやって継続的に改善サイクルを回してゆくかが難題です。しかし、多くの企業は現状の業務フローさえ整理がされていないというのが実態で、これでは先に進めません。そこで本サービスはまず、「業務フローと業務課題の整理」にフォーカスし、これを早く安く、なるべくお客様の人手をかけずに実現することを支援します。

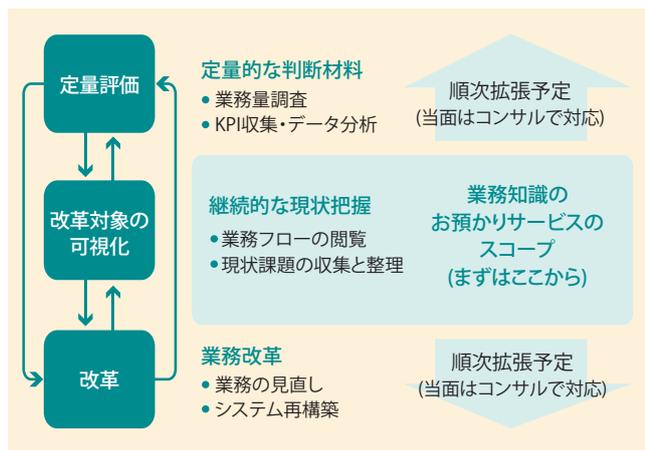


図1:本サービスのスコープ

お客様は必要な時にWebから本サービスにアクセスし業務フローを閲覧できます。その業務に対する課題は付箋を白板に貼るように、業務フローに対してコメントを書き込むことができます。現場のユーザーやラインマネジャー自身からネット上で課題を収集することができるようになります。改革推進者はその課題を別画面で整理し、グループ化、因果関係の分析などを行い、次の施策を企画することができます。業務一覧や課題一覧はダウンロード可能です。本サービスのスコープはまずはここまでです。

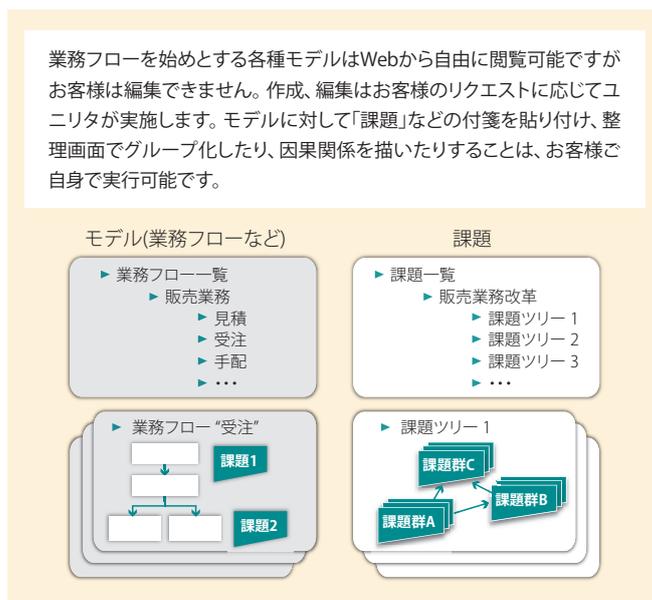


図2:ご利用画面イメージ

➡ 業務フローの書き起こしや変更はどのように行うのですか？

初回の書き起こし時はお客様がお持ちの既存業務フローや業務一覧をユニリタにご提供いただきます。最新でなかったり、互いにつながっていなかったりしていても結構です。ユニリタがドラフトを書き上げ、Web上でお客様にレビューいただく形式で進めていきます。お客様専用のSlackのチャンネルなどを用意し、コミュニケーションをとることで迅速に作業を進めていきます。また、必要に応じてお客様先にお伺いし現状のヒアリングを行うこともできます。初回立ち上げの工程およびその後の変更作業は本サービス費用とは別枠のコンサルティングサービスとして提供します。

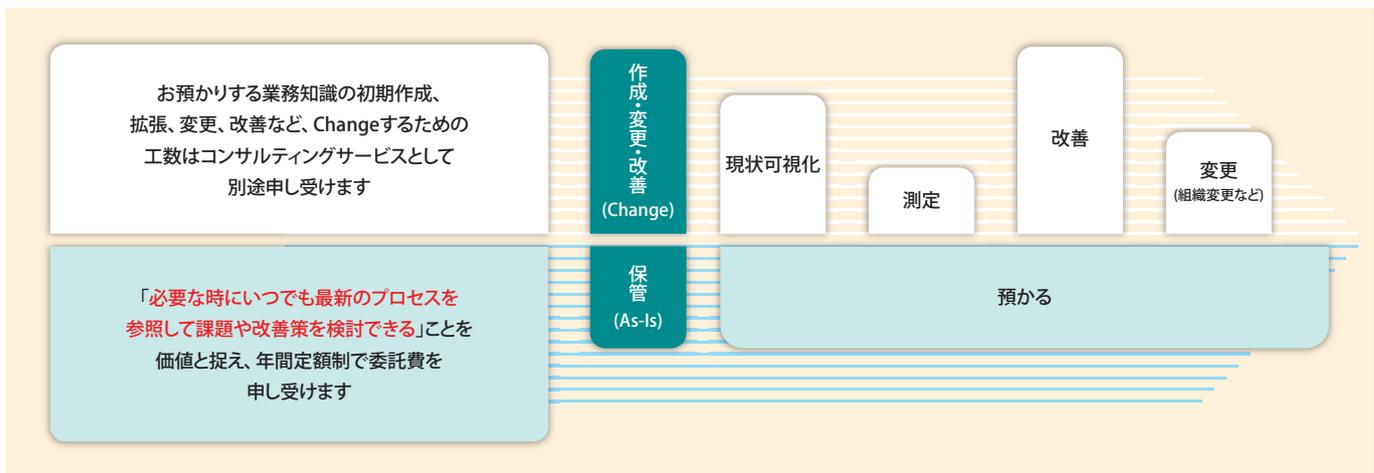


図3:本サービスとコンサルティングサービスの切り分け

⇒ どんなBPMツールが利用されるのですか？

業務フローを書く道具はExcel、Visioから専門のBPMツールまでさまざま、価格帯も無償のものから数百万円するものまで大きな幅があります。知っておいていただきたいポイントは、「絵」を書くのか、「データ」で残すのかの違いです。ExcelやVisio、(その他、昨今ではクラウドサービスで無償のドローイングツールもたくさんありますが)これらで書けるものはあくまでも「絵」に過ぎません。従って、絵の中の一部(例えばある業務へのインプット)が変更された時、別の絵のどの部分にまで影響が及ぶか、ということとは当然わからない訳です。一方、「絵」を書いてゆくと裏で「データ」を保存してくれるのが専門のBPMツールです。業務ステップ、関連する組織、システム、画面、入出力データ、KPI、課題などが、それぞれデータとして互いの関係性を持って保存されます。これにより変更前に影響範囲を確認したり、シミュレーションしたり、ワークフローシステムの実装に活かしたりすることが可能になります。皆様のお悩みは、その両者に大きな価格差があることかつ、その違いを経営層に説明しにくいということでしょう。本サービスでは業務フローは「絵」ではなく、「データ」として生成して後の活用に備えます。なお、ユニリタでは自社ツールを開発し、順次機能強化してゆく計画です。

⇒ どんなメリットがありますか？

顧客志向への回帰、DX(デジタルトランスフォーメーション)や働き方改革の潮流の中で、昨今はIT部門主導ではなく事業部門主導で自らの業務を可視化し、既存ビジネスの変革や新規ビジネスの立ち上げを企画しようとする企業が増えています。当然ながら事業部門には業務フローを

作成し維持管理する体制や役割はありません。一方のIT部門は分業が進み、システム構築時の業務フローは開発ベンダーが作ってくれるというケースが多いようです。必然的に業務フローの書き方はベンダーごとにバラバラ、つながりはアプリケーションごとに閉じた形になってしまいます。本サービスでは、業務フローを管理する役割を代行すると同時に、全社共通の業務可視化の方法論(モデルの階層化の考え方や書き方、つなぎ方のルール)をご提供します。業務は組織やアプリケーションの枠を超えてつながっています。エンド・ツー・エンドでつながっている業務フローを手にして初めて、事業部門は事業の改善サイクルを検討することができます。IT部門はアプリケーションごとに分業していた担当者がビジネスの全体像を理解し、より経営や事業に貢献できるITソリューションを検討することに役立つはず。お客様自身でBPMツールを調達し、利用ルールを定義・維持してゆくコストの代わりに、本サービスの利用をご検討いただくことを想定しています。(図4参照)

⇒ 終わりに

ユニリタでは従来、BPMツールとしては「ARIS(アリス)」を推奨し、販売代理店を務めてまいりました。ユニリタの「ARIS」推しは変わりません。ツールを買うということは自社で利活用するという事です。そのような方針や体制があるお客様には引き続き「ARIS」の活用を支援していきます。すでに「ARIS」をお持ちのお客様には、前述の業務可視化方法論はご案内しています。本サービスは「ARIS」の代わりになるものではありません。本サービスは、自社では業務フローを書き起こしたり、維持管理する方針ではないが、BPMには取り組みたいというお客様に対する一つのソリューションと捉えていただきたいと思います。サービス費用やサービス内容の詳細については順次、ユニリタホームページに公開してまいりますのでご参照ください。

お客様の悩み

事業部/事業部ITの視点

- 業務フローを維持管理する役割がない
- どう活用すれば良いかわからない
- コーポレートITが動いてくれない
- 費用化したい

コーポレートITの視点

- ベンダーごとに成果物フォームが異なるが、標準化させる統制力がない
- 随時最新化する人の余力がない

本サービスの付加価値

事業部/事業部ITの視点

- 役割を代行、費用化
- 業務可視化の共有方法論を提供
- お客様には「活用」にだけフォーカスしていただく

コーポレートITの視点

- アプリケーション開発/保守運用の品質向上、工期短縮、標準化推進
- IT部門に上流シフトの機会をご提供

担当者紹介



ビジネスイノベーション
事業本部 BPM部
部長
富樫 勝彦

図4:お客様の悩みと本サービスの付加価値

デジタルサイネージ向けの コンテンツマネジメントシステム「PICLES」のご紹介 ～業種別に特化したテンプレートでコンテンツ作成・管理を簡単に～

「PICLES(ピクルス)」は、この度ユニリタグループのビーティスがリリースした、デジタルサイネージ(電子看板)向けのコンテンツマネジメントシステム(CMS)です。本システムはクラウド上のコンテンツ管理画面から、マウス操作1つで複数のサイネージを管理することができます。

業種別に特化したテンプレートを用意しているため、表示するコンテンツを簡単に作成することができ、サイネージを設置したその日から運用を開始することができます。また、画像、動画、WebページやSNSの配信にも対応しており、直感的に操作できるユーザーインターフェースで自由なコンテンツ配信を実現します。

【マウス操作1つで簡単にコンテンツ配信】

「PICLES」は、サイネージへのコンテンツ配信を容易に実現する、優れたユーザーインターフェースを備えたCMSです。

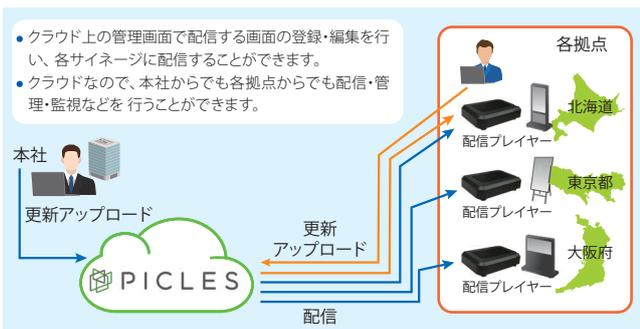
クラウド上の管理画面では、画像・動画やWebページなどのコンテンツの登録、スライドショーの設定、レイアウト変更、スケジュール登録など、サイネージへコンテンツを配信するために必要な作業すべてがマウス操作1つで実現します。

建設業や病院など、業種別に特化したテンプレートもご用意しているため、コンテンツの作成もスムーズに行うことができ、管理者の工数を大幅に削減できます。

また、複数台のサイネージを1つの管理画面から管理することができ、直感的なユーザーインターフェースによってストレスなく操作をすることができます。

【さまざまなディスプレイに対応】

「PICLES」は、液晶サイネージやLEDサイネージなどハードウェアに依存することなくさまざまなディスプレイへのコンテンツ配信を実現します。画面分割やレイアウトも自由に変更できるため、ロケーションや用途に応じてカスタマイズすることができます。



【ユースケース】

Case 1 建設現場での活用例

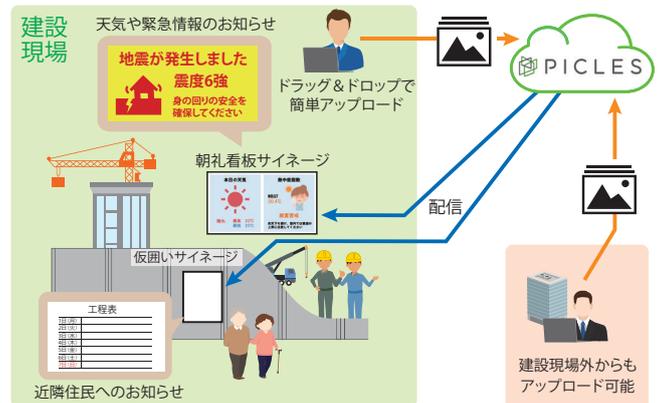
建設現場の業務効率化に

東京五輪に向け開発案件が増えるなか、工事・建設現場ではLEDサイネージの需要が増えています。

一般的に工事・建設現場では文書を配布したり、ホワイトボードに指示を書き込んだりするケースが多く見られます。しかし、大型LEDサイネージを活用することで、より遠くからでも見やすく、リアルタイムに情報や指示を周知させることも可能です。他にも、朝礼・休憩の指示、図面の共有、スケジュール表の配信、工事・建設現場において重要となるWBGT(熱中症指標)の配信にも対応しており、管理者の負担を軽減することができます。

また、仮囲いのホワイトボードの代わりにLEDサイネージを活用することで、工事のスケジュール表を表示させる以外にも、建物の完成予想図を動画で表示する、近隣住民に対する質問や要望への回答を表示するなど、地域住民とのコミュニケーションを活性化させることも可能です。このように、サイネージを住民とのコミュニケーションツールとして活用することで、企業イメージの向上を図ることもできます。

サイネージの管理については、クラウドサービスの特長を活かし、本社からも現場の詰め所からも操作することができます。



Case 2 公共交通での活用例

バス停サイネージとの連携で災害対策に

「PICLES」は地震、台風や津波などの災害情報、鉄道やフライトの遅延情報の配信にも対応しています。

公共交通への活用例として、バス停サイネージとの連携が挙げられます。バス停に設置されたサイネージは、バスの運行情報のリアルタイム配信などに利用されています。また、大地震などの有事の際にはバス停サイネージに災害情報を配信し、災害情報の周知や避難情報の配信に活用することができます。

「PICLES」の利用料金はサイネージ1枚あたり月額1万円からの提供になります。画像、動画やWebページの登録、天気、TwitterやInstagramなどに対応した各種ウィジェット、スライドショーの設定、レイアウト変更、スケジュール登録についてはすべて基本機能に含まれています。

「PICLES」にご興味がある方は、ぜひお問い合わせください。

株式会社ビーティス
TEL:03-6690-5852
E-mail: bttsales@bitis.co.jp
https://www.bitis.co.jp/solution/picles/

担当者紹介
株式会社ビーティス
新規事業開発部
部長
佐藤 龍

2018年度も残りわずか、2月3月は来期に向けた教育を計画する時期ではないでしょうか。システム管理者の会は、さまざまな人材育成活動を実施しています。

2月に開催する「リーダーズミーティング」は、組織メンバの教育を先導するリーダー層向けに、メンバ育成に対する課題解決への情報共有や議論を行ったり、自らも継続して学習する機会を得ていただくことを目的としたイベントです。また、参加者を制限して開催している「アップデートミーティング」は、システム管理者認定講座に合格した方を対象に、受講後にも続けてほしい知識や人脈のフォローアップとして開催しているイベントです。

年間を通して開催している「システム管理者認定講座」は2019年度の開催スケジュールを2月下旬に公開予定です。

各種お申し込みはシステム管理者の会ポータルサイトで行っておりますので、自社の教育計画にご活用ください。



おつかり様です。

現在のシステム管理者認定講座の資格保持者は993名。
資格保持者1,000名突破が確実視されているこの資格を、来年度は取得でござる。



2月イベント情報

TCO削減やセキュリティ強化、コンプライアンス強化などが求められる昨今で、重要性を増してきた「IT資産管理」をテーマに、国際IT資産管理者協会 日本支部長の武内 烈 様をお招きして、マルチクラウド環境における資産管理とベンダー管理の重要性を理解するセミナーを開催します。
参加費無料で、どなたでもご参加いただけます。(非会員の方は、登録時に会員登録ください。)

第14回リーダーズミーティング

2019年2月20日(水)

武内 烈 様
国際IT資産管理者協会 (IAITAM)
日本支部長
ITIL Expert、IAITAM 認定講師

見る知る学ぶ? → 参加する!

<https://www.sysadmingroup.jp/seminar/>



UNIRITA
ユーザ会

第36回UNIRITA ユーザシンポジウム プログラムのご紹介

UNIRITA Users' Group

いよいよユーザシンポジウム開催まで残り1カ月を切りました。今月号では毎年ご好評をいただいている講演会について紹介します。講演会はシンポジウム2日目の12:30より参加者全員で受講するプログラムで、例年、ビジネスだけでなく文化、スポーツなどで活躍された方を講師に迎えて開催しています。

今回は慶應義塾大学大学院メディアデザイン研究科教授であり、元経済産業省の岸 博幸 氏を講師にお迎えし、「ビジネスを取り巻く経済動向とIT戦略(予定)」をテーマに、この変革の時代にビジネスリーダーが持つべき視点および対応策に関して、進む経済のグローバル化に対応した、ITによるビジネスプロセスの効率化についてご講演いただきます。

ユーザ会ホームページにてお申し込み受付中!

URL: <https://36symposium.uniritauser.jp/>



第1回短期ゼミナール開催報告

平成30年12月4日(火)、12月17日(月)に第1回短期ゼミナールを開催しました。

短期ゼミナールは、1つのテーマを少人数、同一メンバーで数回に渡って討議・情報交換する勉強会の場を提供しています。また、業務などのご都合で年間を通じた研究部会活動にご参加いただけない方々にもご参加いただくことで、UNIRITA ユーザ会の年間を通じた研究部会活動をご体験いただくことができます。

今回は、クラスメソッド株式会社様より講師をお招きし、「Alexa スキル開発体験」をテーマに、計2回にわたって開催しました。

1回目は、スキル開発を行うための基礎知識が必要となるため、座学およびワークショップを中心に実施し、Alexa の体験ゲームなどを行い、盛り上がりました。

2回目は、AIスピーカーを稼働させることを目標とした開発を行い、無事にスキル開発後のデモンストレーションまで実施することができました。

おかげさまで、8社10名の方にご参加いただき大盛況で開催終了しました。

開催にあたり、クラスメソッド株式会社様をはじめご協力をいただいた皆さまに感謝を申し上げます。



第36回 UNIRITA ユーザシンポジウム 出展パートナー様一覧

※2019/1/24 時点で出展お申し込みをいただいた企業となります。

プラチナスポンサー

TIS 株式会社

D X実現を阻む「レガシーシステム」。その足枷となるレガシーシステムからの脱却とビジネス変化に柔軟なシステムへと変える、企業のデジタルトランスフォーメーションを支援するサービスをご紹介します。



ニッセイ情報テクノロジー株式会社

日本生命およびグループ各社の情報システム構築において長年培った豊富な業務経験を活かしたITコンサルティング、各業種向けアプリケーション開発、セキュリティ対策などのITソリューションをご提供しております。



株式会社日立ソリューションズ

紙の注文書や請求書に記載された情報を業務システムへ手入力しているデータ入力業務に、AIを活用したテキスト解析・データ抽出技術を使い、作業負担や人的ミスを大幅に軽減するソリューションをご紹介します。



ゴールドスポンサー

株式会社アイネット

当社は国内最高レベルのデータセンターを軸に、クラウドビジネスを展開しています。ブースでは、働き方改革・テレワーク実現の手段となる仮想デスクトップ「VIDAAS」と、データ活用を促進するDroneサービス「Dream Drone」を展示します。



株式会社アイ・アイ・エム

AI型予測サービス「LUIiNa」を1月にリリースしました。30年に渡る性能管理の知見と機械学習で、貴社に合った高精度な異常検知、予測を実現、業務効率化やコスト削減をご支援します。



株式会社アイネス

AI、SAP、ホストに関するシステムについて、効率化や属人化の解消、内部統制をキーワードにご紹介致します。
・AIセキュリティソフト「CylancePROTECT」・ホスト運用管理システム「GoodPar Strength」・SAPマスター管理システム「Aerps MASTER」など



アイビーシー株式会社

「ハイブリッドクラウド環境の運用課題解決」をテーマに各種ソリューションをご紹介します。
・システム情報管理ソフトウェア: System Answer G3
・次世代MSPサービス: SAMS
・脆弱性管理プラットフォーム: tenable.io



アライズイノベーション株式会社

AIを活用した次世代OCR「AIRead」とRPAツール「WinActor」を中心に、お客様の働き方改革を実現するソリューションをご紹介します。



エヌ・ティ・ティ・コムウェア株式会社

ブラウザベースの統合開発環境「クラウドIDE」やさまざまなクラウドへ簡単にリリース可能な「DataSkywalker」といったソフトウェア開発に必要な環境を一式提供し、企業の「DevSecOps」を実現する開発環境クラウド「DevaaS 2.0」をご紹介します。



JFEシステムズ株式会社

電子帳票システム「FiBridgeシリーズ」により、データ活用や業務効率化をご提案。ユニタ製品との連携により帳票作成から保管までスムーズかつ短期間に構築。また、電子帳簿保存に対応した製品もあわせてご紹介します。



株式会社システムエグゼ

ノンプログラミング、専門知識不要。
Excelで作った申請書がそのまま使えるワークフローシステム「EXEX羅針盤ワークフロー」をご紹介します。



株式会社ソフトプレックス

IBMメインフレームを中心に、基盤や運用、開発に役立つ25か国以上のソフトウェアを日本のお客様へ販売しています。MF版A-AUTOの情報を可視化し、シミュレーション、クリティカルパスの分析を行うJobnet/Graphに関してご紹介します。



株式会社中電シーティーアイ

会社まるごと業務改善。
経理も、人事も、営業も、お客さまサポートも、業務のお悩みを軽快かつスピーディに改善できるWeb業務アプリ作成ツール。働き方改革も、イットbuilderから。



東京システムハウス株式会社

レガシー資産のオープン化手法「MMS(メインフレーム・マイグレーション・サービス)」とともに、話題の超高速開発ツール「Wagby」やAIテストツール「SmartCompare」による新しい開発手法をご紹介します。



東芝情報システム株式会社

東芝情報システムは、組込みシステム構築、システムインテグレーション分野における幅広いテクノロジーと長年培った豊富な経験と実績を背景に、お客様のニーズに最適なソリューションをご提供する企業です。



株式会社ビーティス

優れたUIでサイネージへのコンテンツ配信を容易に実現するPICLES(ピクルス)とスマートフォンアプリによるペーパーレス化を実現するMotacell(もたせる)。クラウドサービスであなただけの会社や地域をつなぐお手伝いをしています。



株式会社ピー・ビーシステムズ

VDIに最適! 「Citrix Cloud」
働き方改革も徐々に浸透し、VDIのクラウド化の検討は避けられない選択肢になってきています。弊社が導入前から導入後のサポートにいたるまでワンストップで手厚くサポート致します。



リコージャパン株式会社

「実用的なAR」RICOH Clickable Paper
リコーが長年培ってきた画像処理技術をARに活用!
イベント・キャンペーン活用はもちろん、お客様業務をサポートする実用的な使い方ををご紹介します。



レノボ・エンタープライズ・ソリューションズ株式会社

レノボは、テクノロジー・カンパニーとしてワークスタイルの変革によって、お客様の成功と豊かな社会の実現に貢献します。本展示では、エンタープライズデータアズアサービス(EDaaS)をご提供いたします。



ミールスポンサー

株式会社東計電算



株式会社ユニリタ www.unirita.co.jp

本社 〒108-6029 東京都港区港南2-15-1 品川インターシティA棟 TEL 03-5463-6383
名古屋事業所 〒451-0045 名古屋西区名駅3-9-37 合人社名駅3ビル(148KTビル) TEL 052-561-6808

ユニリタグループ

株式会社アスペックス / 株式会社ビーティス / 株式会社データ総研
備実必(上海)軟件科技有限公司 / 株式会社ビーエスピーソリューションズ
株式会社ユニ・トランド / 株式会社ユニリタプラス / 株式会社無限

※ 本誌掲載の会社名、製品名は各社の登録商標または商標です。

※ 掲載されている内容については、改善などのため予告なく変更する場合がありますので、ご了承ください。

© UNIRITA Inc. 2019.2 MG-1902-2500-1